

看護・保健部門

受賞者： ^{いけだ}池田 きぬ（93歳）
株式会社セントレア いちしの里 訪問看護師



1934年、現在の三重県津市にあたる^{いちし}一志郡大井村で生れる。地元の女学校を卒業後、手に職をつけなければとの思いから看護師の道を選んだ。以来70年あまり、90歳を超えた現在も、現役の訪問看護師として活躍している。

看護師になり最初の現場は、当時の日本軍が療養所としていた神奈川県内の旅館だった。19歳にして看護要員として召集され、軍医の指示のもと厳しい環境の中で様々な傷病兵の看護に励むうち、命を大切にする信念のもと、どんな状況下でも負けない精神力がついた。47年に地元に戻り、三重県内の病院に看護師として勤務したほか、企業の保健師としても活躍した。94年には三重県看護協会役員も務めた。看護師としての励みは、何より患者さんの体調が改善したり、家族から喜ばれることである。

1999年、当時75歳の時に県内最高齢でケアマネージャーの資格を取得。「介護と医療の両面から患者を支えたい」との思いから2012年より高齢者向け住宅施設「いちしの里」で週2回、朝8時から夕方5時まで勤務している。現在、施設では約50人の入居者がおり、自身より年下の入居者を励ましながら、親身になって寄り添い、体調管理と介護のサポートに当たっている。

医療・福祉の現場でも高齢化が進んでおり、看護職の不足は慢性的な問題となっている。看護師は長く働ける職業であると証明している池田氏の活動は、高齢化社会の中でも働く場を広げる契機になっている。

推薦者： 上坂 徹 日本工業新聞社 代表取締役社長